

イラン内政の現状分析と課題—ロウハーニー新政権の成立を軸に—

貫井万里

日本国際問題研究所研究員

2030年のイランの政治情勢をシナリオ・プランニングするにあたり、イラン内政で最も重要な課題は、「ポスト・ハーメネイー体制」の行方といえよう。イラン・イスラーム共和国の最高指導者アリー・ハーメネイー師は、現在、75歳を迎え、16年後には、ポスト・ハーメネイー体制が成立している可能性が高い。したがって、現在のイラン内政は、ポスト・ハーメネイー体制確立に向けての過渡期にあるといえよう。そして、各政治勢力の思惑が表面化する時期として、2016年3月に実施予定の第10期国会選挙と第5期専門家会議選挙が挙げられる。

本レポートでは、2013年6月14日に行われた第11期イラン大統領選挙で、ハサン・ロウハーニー公益判別評議会戦略研究所長¹が50.7パーセントの過半数の得票で当選したことが、今後の展開にどのように影響していくのか、見通しを簡単にまとめることとする。

ロウハーニー師が、第11期大統領に当選した理由として、第一に、有権者が対外関係改善、経済封鎖の解除の希望を託してロウハーニー師に投票したことが考えられる。第二に、5月31日から6月7日にかけて実施された大統領候補者テレビ討論会で、ロウハーニー師は、大統領に相応しい実績と能力を効果的にアピールすることに成功した。第三に、改革派と現実派がロウハーニー師に候補を一本化することに成功したのに対し、原則主義派は有力候補が乱立し、票を分け合う形となった。最後に、最も重要な要因が、ハーメネイー最高指導者によるロウハーニー候補の是認にある。ロウハーニー師が監督者評議会の資格審査を通過した時点で、最高指導者が、同師の大統領就任の可能性を許容していたものと推察される。その背景には、国民の不満が体制の内部崩壊の瀬戸際にまで高まっているとのハーメネイー最高指導者の危機感が影響していたとみられる。

2009年の第10期大統領選挙後の混乱は、最高指導者及び原則主義派による「緑の運動」の徹底弾圧と、改革派と現実派の排除によってイラン政界に深い亀裂を生みだした。国民の間では、政治や表現活動の規制が強まる中、海外移住を志向する若者が増加し、国内では制裁による経済難もあいまって、犯罪率の増加や非イスラーム的行為（飲酒、麻薬、違

法な性的関係)の蔓延も報道されるようになった。そうしたイスラーム体制への絶望感と忌避感の広がりにより危機感を覚えたハーメネイー最高指導者と体制エリートは、体制存続のための「ガス抜き」の必要を認識した。

ハーメネイー師は、2013年春頃から対外関係改善を示唆する発言を行うようになっていた²。また、2013年11月24日付AP通信の報道によれば、2013年3月から既に、アメリカとイランの間で秘密裏に外交交渉が始まっていたとされ³、この時期から、ハーメネイー最高指導者は、次期大統領候補として、対外関係改善を担える候補を念頭に置いていた可能性がある。従って、第11期大統領選挙の結果は、ハーメネイー師が、アフマディーネジャード大統領を代表とする革命第二世代の原則主義強硬派重視から、これまで対立してきたラフサンジャーニー大統領を中心とする現実派容認へと方針転換したことを示している。

2013年6月の第11期大統領選で、ロウハーニー師の大統領選出——体制維持の許容範囲内での民意の反映を演出すること——によって、イスラーム体制はとりあえずの命運が保たれ、しばらく存続する見通しが高まった。2009年までは、イラン内政において、革命防衛隊及びバシージの台頭が著しかったが、2013年の大統領選により、現実派と改革派、さらには伝統保守派の一部の推すロウハーニー大統領が選出されたことによって、その流れが変わりつつあるとみられる。

ポスト・ハーメネイー体制移行期において、専門家会議が今後これまで以上に重要なものと考えられる。専門家会議は、最高指導者の死亡あるいは辞任、または、職務の遂行が困難になったり、最高指導者の資格に欠いているとして罷免された場合、次期最高指導者を選出する権限を持つ組織である(憲法107、109条)⁴。次期最高指導者選出作業を担う可能性の高い次期専門家会議議員を選ぶ2016年の第5期専門家会議選挙の行方、議員の構成、議長は、次期最高指導者選出過程にどの派閥が、誰が、影響力を及ぼす可能性があるかを予測するための貴重な材料を与えてくれるものと期待できる。

現在、専門家会議では、2006年の選挙の結果、「闘うウラマー協会」と「コム神学校教師協会」によって合同で推薦された議員が、86議席中67議席を占め、最も大きな勢力を占めている。二つの伝統保守派を代表するイスラーム法学者組織に対し、近年、革命第二世代を代弁するメスバーフ・ヤズディー師のグループが影響力の拡大を図って挑戦を続けている。メスバーフ・ヤズディー師は、第4期専門家会議選挙前に、独自リストから、自らの支援するアフマディーネジャード大統領のライバルと目される現実派のラフサンジャーニー師とロウハーニー師を排除しつつ、自らに近い若手宗教指導者の増加を図るなど、

次期最高指導者を睨んだ動きをみせている⁵。他方、2013年6月の大統領選挙では、伝統保守派の「闘うウラマー協会」と改革派系「闘うウラマー集団」はともに、ロウハーニー師を大統領候補に推薦したことから、宗教界では、伝統保守派と現実派、さらには改革派との歩み寄りの姿勢がみられる。

2016年までに、ロウハーニー政権が、核交渉を進展させ、経済封鎖の解除に成功させることができた場合、2016年の国会選挙と専門家会議選挙は、現実派と、現実派と妥協した伝統保守派が有利な形で選挙戦を導く可能性が高い。その際、ガーリバーフ・テヘラン市長のような革命防衛隊内主流派であるプラグマティックなグループとの連携や、国民の支持を獲得するために、改革派に一定の政治参加を容認することなどが課題になるものと考えられる。

2009年大統領選後の騒擾事件は、イスラーム体制への批判勢力を軍事力で徹底弾圧し、体制は存続したものの、国民のイスラーム体制の正当性への疑問や不満は増幅し、内部から崩壊する危険性が高まった。ポスト・ハーメネイ体制の移行に際して、軍事力で反対派を弾圧するか、あるいは、さらに大幅な自由を許容するか、政権は難しい選択に迫られる。

1 ハサン・ロウハーニー師のプロフィールについては下記のサイトを参照。

<http://www.bbc.co.uk/persian/iran/2013/08/130802_151_rouhani_president_inbox.shtml>, accessed on August 14, 2013.

2 Akbar Ganji, "Who Is Ali Khamenei?: The Worldview of Iran's Supreme Leader," *Foreign Affairs*, 92(5), the Council on Foreign Relations, 2013, pp. 46-48.

3 Bradley Klapper, Matthew Lee and Jolie Pace, "Secret US-IRAN Talks Set Stage for Nuke Deal," AP, November 24, 2013, <<http://bigstory.ap.org/article/secret-us-iran-talks-set-stage-nuke-deal>>, accessed on November 25, 2013.

4 『イラン・イスラーム共和国憲法』（日本イラン協会編、1989年）。

5<http://www.bbc.co.uk/persian/iran/2013/09/130902_145_zakani_ahmadinejad_experts_assembly.shtml>, accessed on September 17, 2013.